

渡辺さん、たくさんの  
勇気をありがとう



豊里小学校 6年  
深町 駿 さん

「みんなとやることが同じ時間にできなくても、時間をかければきつとできるようになる。」これは五年生の時、僕の学校に講演に来てくださった渡辺さんの言葉です。今でも僕の心の中で生き続けている言葉です。

渡辺さんは元警察官です。病気のため目が見えなくなりました。その時は、大変なショックを受けたにちがいありません。その後、盲学校で勉強してから、走り高跳びの選手としてパラリンピックに出場したり、スキートの大会に出場したりと大活躍をしたそうです。

僕は、渡辺さんの講演会でごく心に残ったことがあります。それは、拍手の音を聞いて、どこにどの学年がいるのかがわかったことです。目の前で見て「すごい！」と思いました。その後、僕たちに「みんなと同じ時間にできなくても、時間をかければきつとできるようになる。」と言ったのです。僕はその時「そうだよなあ。どんなにすごい人でも練習しなければできるようにはならないんだ。」

## 譲葉の賦

### ⑪ 討幕の企て

文久二年（一八六二年）には坂下門外の変、寺田屋事件、生麦事件と歴史の大転換を予見させる大きな事件が立て続けに起こった。特に生麦事件の後は、江戸の街は激しく動揺し、諸侯の多くは妻子を故国に移した。中山道は江戸からの避難民で溢れた。こうした日本の姿をじっと見ていた可堂は、文久三年三月五日、備中庭瀬藩板倉家へ禄を返すと、門弟達を集め「この我が国の姿を見るに、回天動地の維新たるや血を見ずして行い難し、幕府の威信が地に落ちた今、その幕府の存在こそが国威の干犯である。」と語り、故郷北武蔵中瀬の地において同志を募ることを伝えた。この地は利根水運の要衝であり、関東各地の同志との往来に都合が良く、幕府の目も届き難かったのである。三月二十二日、可堂は早速中瀬村に入り、居所を変えながら方々の志士との連絡や調整に奔走した。そして、五月十二日には澁澤喜作の計らいにより、中瀬村上中瀬の地に居を定め、中瀬河岸から数町のところに桃井塾を開いた。この桃井塾では、可堂の門弟に加え、尾高

### 桃井可堂伝

藍香、長七郎兄弟や澁澤栄一らが血気盛んに時勢を論じ、そして密かに討幕を企てた。こうした草莽の志士の中に、後に赤報隊の隊長として非業の死を遂げることになる相楽総三の姿もあった。この相楽が軍資金を用立てたことにより、可堂らの挙兵計画は一層具体性を帯びた。

その計画とは、まず同志が多い越後と北武蔵で一斉に蜂起し、赤城山を拠点として、沼田城を奪取する。次に横浜に進軍して焼き討ちを決行し、異国人を討ち果たし攘夷を完遂するというものであった。「相楽殿、この一挙は建武中興における新田義貞公の義挙を理想としたい。それ故、義貞公の後裔である岩松俊純殿を盟主とするのが最も相応しいと思うが如何か。」「先生のおっしゃる通りこの義挙の盟主は岩松殿において他にはございません。この義挙によって時局が紛糾する機を逃さず、討幕への流れを作り出すことこそ、我らの使命でございます。」「ならば我ら、岩松殿を盟主と仰ぎ、これより三月後の文久三年十一月十二日に起つと越後に伝えられたい。」「残暑厳しい夏の夕暮れ、可堂ら天朝組の行く道はこうして決まった。

# 夢 なかるべからず

さん 丸 志ん 亭 今 古

## 落語という楽娛を伝える



### ベストを尽くす

「同じ日は二度とできない。その日の「体調」や「気持ち」のちよつとした違いが「声」や「仕草」、「間」を変える。言葉は生もの。気持ちの緩みは観客にすぐ伝わる。」

だからこそ、手を抜いた舞台は一度もない。誰の助けもない、唯一頼ることができるのは自分だけ。扇子と手拭いを携え、今日も高座へと歩を進める。 噺家 古今亭志ん丸。昨年8月、才気煥発な真打が誕生した。

### 感じた縁

大学4年のころ、足を運んだ「古今亭志ん朝」の独演会。客は当然「志ん朝」を待つ。彼らには志ん朝以外の共演の噺家は見えていなかった。

しかし、志ん朝の弟子「古今亭志ん橋」が高座に上がると、それまで静かだった会場に笑い

が巻き起こった。翌日、彼は古今亭志ん橋を訪ね、落語の世界の門を叩いた。



浅草園芸ホールでの真打昇進時の口上  
古今亭志ん丸(中央)、林家木久扇(手前)、  
古今亭志ん橋(奥)

「志ん朝も志ん橋も面白かったんです。でも、志ん朝だけを待つ客を笑わせた志ん橋に魅力を感じたんです。」当時を振り返り、噺家になった動機を話す。落語に直に触れ、魅力と縁を感じた。それに、素直に従っただけ。

### 近くにある落語

友 達に誘われて来たけど興味がない、難しそうだからちよつと…。そんな人たちを笑わせた瞬間、充実した気持ちでいっぱいになる。自分の噺が落語の魅力を伝えた瞬間だ。

落語の多くは、身近な体験談を元に作られている。それゆえ、どの年代の人でも共感でき、楽しむことができる。

そんな落語の持つている魅力

を伝えていく。「郷里である深谷市に住むすべての人に私の落語を聞いてもらって、楽しんでもらいたい。」その想いを胸に抱き、今日も話し始める。「え、それでは、一席お笑いを申し上げます。」

### 夢七訓

夢なき者は理想なし  
理想なき者は信念なし  
信念なき者は計画なし  
計画なき者は実行なし  
実行なき者は成果なし  
成果なき者は幸福なし  
ゆえに 幸福を求める者は夢なかるべからず※

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)